

作業療法学専攻

A 欧 文

A-a

1. T Fukuda, M Motomura, Y Nakao, H Shiraishi, T Yoshimura, K Iwanaga, M Tsujihata, K Eguchi: Reduction of P/Q-type calcium channels in the postmortem cerebellum of paraneoplastic cerebellar degeneration with Lambert-Eaton myasthenic syndrome. *Ann Neurol* 53(1): 21-28, 2003
2. Masakatsu Motomura, Yoko K. Nakao, Takayasu Fukudome, Taku Fukuda, Hirokazu Shiraishi, Toshiro Yoshimura, Mitsuhiro Tsujihata, Katsumi Eguchi.: What's in the serum of seronegative MG and LEMS? *Neurology* 2(2): 277-278, 2003
3. Masakatsu Motomura, Taku Fukuda, Yoko Nakao, Hirokazu Shiraishi, Toshiro Yoshimura, Keisuke Iwanaga, Mitsuhiro Tsujihata, Hiroto Desaka-Akita, Katsumi Eguchi.: Paraneoplastic cerebellar degeneration and antibodies to P/Q-type calcium channels. *Ann Neurol* 54(2): 277-278, 2003
4. Minoru Okita, Toshiro Yoshimura, Jiro Nakano, Masakatsu Motomura, Katsumi Eguchi 3) Effects of reduced joint mobility on sarcomere length, collagen fibril arrangement in the endomysium, and hyaaluaronan in rat soleus muscle. *J Muscle Research and cell Motility* 24 2003
5. M. Tsujihata, A. Satoh, T. Yoshimura, M. Motomura, G. Takeo, H. Matsuo, T. Nakamura Effect of myasthenic immunoglobulin G on motor end-plate morphology *J Neurol* 250 75-82 2003
6. Tanaka G.: Development of the Mental Illness and Disorder Understanding Scale. *International Journal of Japanese Sociology* 12, 95-107, 2003.
7. Tanaka G., Ogawa T., Inadomi H., Kikuchi Y., Ohta Y.: Effects of an educational program on public attitudes towards mental illness. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 57(6), 595-602, 2003. *
8. Inadomi H., Tanaka G., Ohta Y.: Characteristics of trees drawn by patients with paranoid schizophrenia. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 57(4): 347-351, 2003. *
9. Ohta Y, Araki K, Kawasaki N, Nakane Y, Honda S, Mine M: Psychological distress among evacuees of the volcanic eruption in Japan; A follow-up study. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 57(1): 105-111, 2003. *
10. Hamada, Y., Ohta, Y., Nakane, Y.: Factors affecting the family support system of patients with schizophrenia: A survey in the remote island of Tsushima. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 57(2): 161-168, 2003. *
11. Funase K, Higashi T, Sakakibara A, Tanaka K, Takemochi K, Ogahara K, Iwanaga R: Neural mechanism underlying the H-reflex inhibition during static muscle stretching, *Advances in Exercise and Sports Physiology*, 9: 119-127, 2003

A-b

1. Minoru Okita, Toshiro Yoshimura, Jiro Nakano, Masumi Okamoto, Katsumi Eguchi: Effects of reduced joint mobility on sarcomere length, collagen fibril arrangement in the endomysium, and hyaluronan in the rat soleus muscle. 14th International Congress of the World Confederation for Physical Therapy, Barcelona Spain, 2003. 6. 7-12.
2. Hideki Kataoka, Minoru Okita, Kazuyo Nakai, Norika Toyoda, Jiro Nakano, Toshiro Yoshimura: Effects of heat stress on prevention of disuse muscle atrophy in rat skeletal muscle. 14th International Congress of the World Confederation for Physical Therapy, Barcelona Spain, 2003. 6. 7-12.

B 邦 文

B-a

1. 藤本武士、藤本武士、本村政勝、調 漸、江口勝美、中村龍文、吉村俊朗：神経因性膀胱を合併し、ステロイド治療後良好な経過を呈した Churg-Strauss 症候群の 1 例。日本内科学会雑誌 92(2)：131-133, 2003
2. 本村政勝、福田 卓、中尾洋子、白石裕一、吉村俊朗、岩永圭介、辻畑光宏、江口勝美：Lambert-Eaton 筋無力症候群に伴う傍腫瘍性小脳変性症 (PCD-LEMS) の剖検小脳におけるカルシウムチャンネルの減少。神経免疫学 11(1)：81 2003
3. 白石裕一、本村政勝、福田 卓、吉村俊朗、中尾洋子、辻畑光宏、江口勝美、Werner Hoch、Angela Vincent：筋特異的チロシンキナーゼ (MuSK) 自己抗体と重症筋無力症。神経免疫学 11(1)：97, 2003
4. 江口博人、木下郁夫、森田茂樹、吉村俊朗 血清 CK の上昇のみで発見された脊髄性筋萎縮症と思われる 1 例 神

経内科 58(1) : 89-92、2003

5. 吉村俊朗、沖田 実、中野治郎、白石裕一、岩永 洋、友利幸之介、岡本真須美 カネミ油症検診者に見られる血清クレアチンキナーゼとアルドラーゼの異常 福岡医学雑誌 94(5) : 97-102、2003

B-b

1. 中野治郎、友利幸之介、沖田 実、吉村俊朗、本村政勝、江口勝美：アジュバント関節炎の後肢に対する熱刺激の影響。第38回日本理学療法学会大会、長野、2003。 5。 22-24、理学療法学 学会特別号 30(2) : 264、2003。
2. 沖田 実、吉村俊朗、中野治郎、本村政勝、江口勝美：不動によるラットヒラメ筋の細胞マトリックスの変化—コラーゲン線維とヒアルロン酸について—。第38回日本理学療法学会大会、長野、2003。 5。 22-24、理学療法学 学会特別号 30(2) : 204、2003。
3. 中居和代、豊田紀香、片岡英樹、沖田 実、中野治郎、吉川紗智、渡部由香、折口智樹、吉村俊朗：異なる温度条件での熱刺激がラットヒラメ筋の廃用性筋萎縮の進行抑制効果におよぼす影響。第38回日本理学療法学会大会、長野、2003。 5。 22-24、理学療法学 学会特別号 30(2)、105、2003。
4. 豊田紀香、中居和代、片岡英樹、沖田 実、中野治郎、折口智樹、吉村俊朗：熱刺激によるラット骨格筋の廃用性筋萎縮の進行抑制効果について—速筋と遅筋に対する影響—。第38回日本理学療法学会大会、長野、2003。 5。 22-24、理学療法学 学会特別号 30(2)、105、2003。
5. 西田まどか、鍛塚幸子、岡本真須美、沖田 実、中野治郎、吉田大輔、荒木景子、吉村俊朗：関節拘縮と廃用性筋萎縮の予防としての短時間持続伸張運動の影響。第38回日本理学療法学会大会、長野、2003。 5。 22-24、理学療法学 学会特別号 30(2)、107、2003。
6. 鍛塚幸子、西田まどか、岡本真須美、沖田 実、中野治郎、吉田大輔、荒木景子、吉村俊朗：ギブス固定中のラットヒラメ筋に対するストレッチの影響。第38回日本理学療法学会大会、長野、2003。 5。 22-24、理学療法学 学会特別号 30(2)、107、2003。
7. 岡本真澄美、中居和代、友利幸之介、豊田紀香、加須屋茜、沖田 実、中野治郎、鍛塚幸子、西田まどか、吉村俊朗、辻畑光宏：経皮的電気の周波数の違いがラット前脛骨筋の筋線維肥大効果におよぼす影響。第38回日本理学療法学会大会、長野、2003。 5。 22-24、理学療法学 学会特別号 30(2)、56、2003。
8. 吉川紗智、渡部由香、沖田 実、中居和代、豊田紀香、片岡英樹、中野治郎、折口智樹、吉村俊朗：熱刺激の温度条件の違いがラットヒラメ筋の廃用性筋萎縮の進行抑制効果におよぼす影響。第8回理学療法の医学的基礎研究会学術集会、長野、2003。 5。 24、理学療法の医学的基礎 7(1)、14、2003。
9. 友利幸之介、吉村俊朗、中野治郎、沖田 実、辻畑光宏：経皮的電気刺激による筋収縮運動が抹消神経自家移植術の神経再生におよぼす影響。第37回日本作業療法学会、福岡、2003。 6。 25-28、作業療法 特別号 22、505、2003。
10. 中野治郎、沖田 実、中居和代、片岡英樹、豊田紀香、吉村俊朗、本村政勝、江口勝美：アジュバント関節炎の後肢に対する高温刺激、低温刺激の影響。第38回日本理学療法士協会全国研修会、宇都宮、2003。 9。 26-27、理学療法学 研修会特別号 30(3)、54、2003。
11. 中野治郎、沖田 実、友利幸之介、西田まどか：アジュバント関節炎ラットに対する冷刺激の影響。第11回日本物理療法学会、三原、2003。 10。 25-26、第11回日本物理療法学会学術大会抄録集、27、2003。
12. 沖田 実、中野治郎、吉田大輔、荒木景子、坂本淳哉、岡本真須美、西田まどか、吉村俊朗：持続的他動運動(CPM)による拘縮の予防効果—ラットヒラメ筋の筋内膜コラーゲン線維網の形態変化から—。第11回日本物理療法学会、三原、2003。 10。 25-26、第11回日本物理療法学会学術大会抄録集、22、2003。
13. 友利幸之介、中野治郎、沖田 実、吉村俊朗、辻畑光宏：末梢神経再生に対する経皮的電気刺激の影響—ラットを用いた実験的研究。第11回日本物理療法学会、三原、2003。 10。 25-26、第11回日本物理療法学会学術大会抄録集、22、2003。
14. 長尾哲男：ADLにおけるリハビリテーションと介護の関係。OT ジャーナル 37 : 459-463、2003

B-c

1. 船瀬広三(担当6章、15章、第6部3)、入門運動神経生理学—リハビリテーションからスポーツまで—、矢部京之助・大築立志・笠井達哉編、市村出版、2003
2. 土田玲子、岩永竜一郎：日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査(JMAP)と簡易型JMAP：パシフィックサブライ株式会社、2003。
3. 菊池泰樹：最大無影響量の決定。統計科学の最前線、柳川 堯編、九州大学出版会、福岡、2003、pp61-77。
4. 吉村俊朗、東登志夫、中尾理恵子。脳血管障害 編者：上平 憲、田代隆良 看護アセスメントに役立つ検査の読み方、東京、医学芸術社 472-484、2003

B-d

1. 吾妻ゆみ、田中香織、中島直美、原田加奈子、稲富宏之、田中悟郎、太田保之：女子大学生の職業選択における意志決定に関わる要因。長崎大学医学部保健学科紀要 16(2)：103-109、2003。
2. 田中悟郎(研究代表者)：精神分裂病患者の視覚注意障害が社会的転帰に及ぼす影響に関する研究。平成12年度～平成14年度科学研究費補助金成果報告書、2003。
3. 長崎県五島保健所、田中悟郎：地域生活に関するニーズ(実状と要望)の調査結果報告書、2003。
4. 太田保之：シリーズ/精神医学用語解説 災害精神医学(disaster psychiatry)。臨床精神医学、32(8)1011-1012、2003。
5. 岩永竜一郎、東登志夫、船瀬広三：CNV 解消過程における成人—児童間の違い—P300 の発達的变化との関係—、長崎大学医学部保健学科紀要、16(1)：19-23、2003
6. 榊原 淳、山口直美、高見友子、友利幸之介、東登志夫、船瀬広三：痴呆性老人に対するコミュニケーション促進を目的としたロールプレイ活用の効果、長崎大学医学部保健学科紀要、16(1)：37-43、2003
7. 岩永竜一郎、船瀬広三、東登志夫：随伴性陰性変動(CNV) 解消過程の発達的变化と4種の認知検査のスコアとの関係、長崎大学医学部保健学科紀要、16(2)：97-102、2003
8. 友利幸之助、東登志夫、室谷直美、西本加奈、中野治郎、榊原 淳、長尾哲男：更衣動作を中心とした病棟 ADL 訓練によって生活全般が活性化した一症例—回復期リハビリテーション病棟での経験を通して—、長崎大学医学部保健学科紀要 16(1)：57-61、2003
9. 鎌田篤子、神田幸彦、長尾哲男、東登志夫、野田真理子、水本大策：高齢者施設利用者における補聴器使用について—補聴器の入手経路と使用実態—、長崎大学医学部保健学科紀要 16(2)：111-114、2003
10. 長尾哲男、鎌田篤子、東登志夫：老人性難聴者の聞こえ方の理解と対応方法の調査—高齢者施設における職種別調査から—、長崎大学医学部保健学科紀要 16(2)：121-126、2003

原著論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	合計	総計
2003	11	2	0	0	13		5	14	4	10	33	46

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計	B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会			シンポジウム	学会		
2003	1	0	0	1	3	0	31	34	35

原著論文総数に係る教官生産係数一覧

	欧文論文総数 (論文総数)	教官生産係数 (欧文論文)	SCI掲載論文 (欧文論文総数)	教官生産係数 (SCI掲載論文)
2003	0.283	1.182		